

## 令和7年度学校評価計画書（中間）

学校名 (宮内小学校)

評価計画					自己評価					学校運営協議会 委員評価コメント	改善方策
中期経営目標 (めざす児童生徒像)	短期経営目標 (めざす児童生徒像)	目標達成のための方策	評価項目・指標	目標値	中間 8月	最終 2月	達成 率	評価	結果と課題の分析		
確かな学力の定着 (自ら学び合う子)	・各教科等の目標を達成するための学びを定着させる	・全教科で学習計画表を活用し、ゴールと見通しを児童と共有する。  ・特別支援教育の考え方を生かした個別最適な学びを提供する。  ・年度内に授業で準備する教材のデータベース化を行う。	・授業では、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいると捉える児童の割合。  ・1月実施の学力調査において、国語、算数とも、全学年、ステップ5を20%以上、ステップ1を8%以下にする。  ・全学年全教科データベース化が完了する。	90%  100%  100%	92%  —  77%		100%  —  77%	A  —  B	・学習計画表で児童とゴールを共有し見通しをもたせることができた。課題解決に向けて自分から取り組んでいるという児童の実感が9割を超えているのは一定の成果があったと考える。 ・全国学力・学習定着状況調査の結果を踏まえ、学年ごとに成果と課題を整理した。 ・個別最適な学びを推進するために、特別支援教育部で授業改善プロジェクトに取り組んでいる。特別支援教育の考え方を生かした授業づくりの基本的な考え方を示したこと各教室の環境設定が整ってきた。研究授業ではすべての児童が学びを進められるように授業内容やワークシートの改善を行ったことで、支援を行った児童が単元末テストで平均点を超える、または近づくという結果となった。 ・データベース化はまだ定着していない。	・学校の教育活動は、学力の定着が第一だと思うし、大切だと思う。個別最適な学びで多様な子供たちに対応していくことは大変だと思うが大切だと感じた。 ・やるべきことをやらせることももちろん大切だが、そこからはみ出す家庭については、個別の対応が必要だと思う。	・学習でつけるべき力を児童と共有し、授業後に自分の学びを振り返らせることを継続する。また、残り8% (30人学級で2人程度の割合) の児童の向上を目指し、学びに向かい続ける児童の育成を目指す。 ・学年で整理した成果と課題をもとに授業改善を行い、1月の学力定着状況調査で検証する。 ・授業が分からないと答えた児童の割合が9%なので、5% (1クラス1人の底上げ) に減るように授業改善が行われるように目指していく。 ・データベース化について、時間と場の設定や定期的に呼び掛けるなどして、整備していく。
自律と協働の力の育成 (心豊かな子)	・学校の中で一人一人が認められ活躍できる場を増やす。	・つながり支援の計画的な実施をする。  ・学校のきまりを児童基点で見直す。 ・児童会活動を計画的に実施する。	・学期2回以上、提案し各学級で実施  ・見直しについて代表委員会で話し合い改正する。 ・計画(4月作成)に基づいた実施をする。 ・自分にはよいところがあると捉える児童の割合。(児童アンケート)【校区共通項目】	90%  90%  90%	79%  90%  86%		88%  100%  96%	B  A  B	・縦割り班活動を活用したつながり支援を計画的に行っている。縦割り班や学級の中で互いの良さを認め合うことができた。 ・学校のきまりについて、生徒指導規定改正委員会を中心に見直しの動きを作ることができている。児童・教職員双方の意見を出せる場の確保ときまりについて各自が確認しやすいような環境の整備を進めていく。 ・委員会活動や児童会活動について行事カレンダーを作成して計画的に実施できている。	・自分の力を発揮できるためには、安心して過ごせる居場所あってこそだと思う。特別活動の取組など、学習以外でも活躍できる取組が多いと感じた。	・引き続き、児童がつながりを感じて自己肯定感を高められるような取組を行っていく。 ・児童・教職員双方の意見を出せる場の確保ときまりについて各自が確認しやすいような環境の整備を進めていく。 ・児童の自己有用感が高まるようによい活動の紹介や取組に対する児童へのフィードバックを行っていく(委員会の振り返りや来年度への委員会紹介など)。
体力の向上 (運動を楽しむ子)	・運動にふれる機会を計画的に増やす。	・体育の授業改善  ・休憩時間の外遊びの紹介と時間の設定を行う。	・運動することが楽しい肯定的評価。(児童アンケート) ・年度終わりに年間計画が作成できている。	90%  90%	94%  —		100%  —	A  —	・外遊びの紹介や時間の設定に対する取組が十分ではなかった。 ・体力テストの結果について分析し、授業の改善の方向性と検討した。	・子供にどのような目標をもたせるかが重要。無限の可能性をもつ子供達に適切な目標を設定させ、努力の過程も大切に評価してほしい。	・委員会活動で体を動かすイベントを企画したり、運動会に関連して体を動かす機会を作ったりするなど、楽しみながら体を動かす取組を企画・実施していく。 ・始業時に、体力テストの結果から児童の苦手な投げ運動を取り入れていく。

地域、保護者から信頼 される学校	・宮内の学びを実感する 場をつくる。  ・情報発信の質の向上。	・総合的な学習の時間を 中心に、児童が地域と関 わる場をつくり、発表す る。 ・各種たよりを子どもの 学びが見えるものにする。	・本校の取組への満足度。 (児童、保護者アンケート)	90%	92%		100%	A	・高学年は地域と関わる機会が少なかった。 夏は熱議で、地域とともに2学期以降に取り 組めることについて協議した。また、アンケ ートより児童の挨拶に課題があった。 ・各種たよりで写真等を掲載し学びの様子が 分かるようにしているが十分ではない。HP 宮 内小日記を更新しているがその周知が十分 ではなかった。	・学校が困っている ことを遠慮なく言っ てほしい。地域と共 通の課題かもしれない。 ・近年の保護者の情 報の志向は文書より 画像だと感じている。 タイムリーな内 容を発信するなど心 がけていきたい。	・今後、生活科や総合的な学習の時間 で計画的に地域と関わる場を設定して いく。挨拶については、学校や地域の中 で挨拶を意識できるよう声をかけたり、 できている児童を認めたりしながら、ま ずは教職員が率先して挨拶を行い、児童 や地域とのつながりを作っていく。 ・各種たよりで情報発信していくととも に、tetoru 配信の際にリンクを貼るな ど、教育活動の情報を負担なくアクセス できるよう工夫する。
		・各種たよりの満足度。 (保護者アンケート)	90%	82%		91%	B				

「達成度」＝報告期の達成値／目標値
「評価」＝目標値に対する評価の度合い
（A：100%、B：80%以上、C：60%以上、D：60%未満）